

O1-055

演題取下げ

O1-056

病棟保育士による保育が入院児付き添い家族の負担感・心理的ストレス反応・入院生活満足度に与える影響：横断的観察研究粕谷 ありさ¹⁾、副島 堯史¹⁾、佐竹 和代²⁾、上別府 圭子¹⁾東京大学 医学部 健康総合科学科 家族看護学教室¹⁾、
東京大学医学部附属病院 小児科病棟²⁾**【目的】**

病棟保育士は家族支援の役割も担っている。病棟保育の実施により付き添い家族の負担及びストレスの軽減と入院生活満足度の上昇が予想されるが、どのような保育が付き添い家族に影響を与えるかは明らかになっていない。本研究の目的は、小児病棟におけるどのような保育が入院児の付き添い家族の負担感や心理的ストレス反応を軽減するか、また入院生活の満足度を向上させるかを明らかにすることである。

【方法】

2019年10月～12月にA病院小児科病棟に入院した児の付き添い家族を対象に、無記名自記式質問紙調査を用いた横断的観察研究を実施した。質問紙で、基本属性、病棟保育に関する事項、付き添い家族の負担感、心理的ストレス反応、入院生活満足度を尋ねた。分析は付き添い家族の負担感、心理的ストレス反応、入院生活満足度、病棟保育の利用頻度におけるSpearmanの順位相関分析を行った。相関係数はCohenの基準に基づき、0.1を効果量小、0.3を効果量中、0.5を効果量大とした。本研究の実施にあたり研究者が所属する倫理委員会の承認を得た。

【結果】

付き添い家族7名から質問紙が返送された。分析の結果、預かり保育の頻度と付き添い家族の負担感・心理的ストレス反応に効果量大の負の相関がみられた。また集団保育・病室内保育の頻度と付き添い家族の負担感には効果量大の負の相関が、心理的ストレス反応には効果量大の正の相関がみられた。病棟保育の頻度と入院生活満足度で効果量大の相関係数はなかった。

【考察】

預かり保育の利用頻度は、付き添い家族の負担感・心理的ストレス反応の軽減と関連する可能性が示唆された。生活を制限されながら入院児に付き添う家族にとって、自分のために使える時間や休息時間は少なく、付き添い家族は子どもと離れ一人で過ごす時間を、「休息」と感じる。そうした状況下で、保育士が「付き添い家族のレスパイト」を目的とした預かり保育を実施することで、家族は休息や自分の時間を取ることができると考えられる。先行研究で在宅療養児を介護する家族においてレスパイトサービスが介護負担を軽減し、QOLを向上するとされる。本研究により、入院中の小児の付き添い家族に対して病棟保育士の活動が同様のレスパイト効果をもたらす可能性が示唆された。